

# ナイアガラタイムス

2022年12月15日 第12号

## 人 カ 夢



### 目次

名盤探検⑪ 竹内まりや「ヴァリエティ」	・・・2
シネマ滝⑩ 「舟を編む」(2013年4月公開)	・・・3
THE 極み 「町田 仲見世商店街 丸錠」矢部早苗さん	・・・4
美味な話⑩ MOGUMOGU	・・・7

## 名盤探検隊⑪ 竹内まりや『ヴァラエティ』（1984年4月発売）

今回、なにを取り上げようかと考えてみた。浮かんできたのは、日本でおそらく、ただひとりアイドルからシンガーソングライターに転向した竹内まりや。その最初の作品「ヴァラエティ」にする事にした。

アイドル時代には「セプテンバー」「不思議なピーチパイ」をヒットさせたのち、シンガーソングライターとしての道を歩む事になった彼女。今、久しぶりにこのアルバムを聞いているのだが、いい作品だ。

竹内まりや。島根県の出雲大社の近くにある老舗旅館の三女として生まれる。高校2年の時に1年間アメリカに留学し、コーラス部で活動する。慶応大学に進学し、バンドサークルに入る。78年アイドルとしてデビュー。ルックスも相まって活躍していたが、不本意な仕事をこなしていく事に疑問を抱えていた。そんな時、山下達郎がアレンジャーとして現われた。竹内はシュガー・ベイブ時代から彼に衝撃を受けていた。

喉を痛めて入院した事もあり、音楽活動を見つめ直すために一時休業する。その間に山下と結婚し、新たに設立されたレーベルに移籍した。その復帰一弾が「ヴァラエティ」。楽曲はすべて彼女が書きためたもの。シンガーソングライター竹内まりやの誕生だ。

この作品は、彼女の6枚目のアルバム。その何曲か紹介したい。オープニングを飾るのは、山下の澄み渡るコーラスで始まる「もう一度」。これで今後、竹内の作品で彼がプロデュースそしてコーラスをしていく事を宣言した第一声とも言える。聞いていくと彼のコーラスが曲全体に際立っている。次に「プラスチック・ラブ」。万華鏡のようなサウンドの中にせつない女心を歌い上げている彼女の声、たまらなく好きだ。この曲は最近、シティポップが海外で注目されユーチューブで2400万回以上再生された。それを受け2021年にシングルとして発売された。そして全編英語の歌詞の「本気でオンリーユー」ウェディングソングで始まるこの曲。きっと、あの頃、結婚式で使われた方も多いただろう。

滝が一番好きなのは、しっとりとして歌いあげている「シェットランドに頬をうずめて」。この作品は、この曲で締めくくられている。

竹内まりやの、これ以降リリースしたアルバムはすべてチャート1位を獲得。そして山下達郎とパートナー、プロデューサーとして今日までタッグを組み続けている。これは、すごいことではないだろうか。



## シネマ滝⑩「舟を編む」(2013年4月公開)

この作品が公開された頃、映画館へ見に行った記憶がある。けれどタイトルが思い出せなかった。「広辞苑を作っていく映画なんて言ってたかな」とぼんやりとパソコンをいじってみた。それは「舟を編む」だった。中古のDVDを購入し観た。その映画を滝なりに紹介したいと思う。

三浦しをんが女性ファッション誌に2009年から約2年間連載し、その後、単行本になり、翌年に本屋大賞を受賞した。本作は、それを実写映画化されたものである(アニメ化にもなっている)。

1995年、ある出版社で「大渡海」という「今を生きる辞書」を制作することになった。しかしそれまで辞書編集一筋だった荒木(小林薫)が定年退職を迎える。国語学者で「大渡海」の監修をしていた松本(加藤剛)に引き止められるのだが、意志は固く荒木の後任をさがす事になった。営業部には大学院で言語学を専攻していた馬締(まじめ)(松田龍平)がいた。彼は営業部では苦戦していたが、言葉には人一番敏感な男だった。見出し語が24万語という巨大な辞書の編集の始まりだ。

編集部は日常的に気がついた言葉とその意味をカードに書いていく用例採集という作業の積み重ねがある。松本に至っては年配なのに、用例採集のためなら合コンにも参加する。これほどまでに言葉に対して貪欲にならないと出来ない仕事である。それをこれまでの辞書と照らし合わせていく、気が遠くなるような膨大な作業だ。「大渡海」を完成させるためには14年の年月を費やした。

14年の間には当然、恋もある。ある日、満月の夜に馬締は下宿しているアパートの大家の孫、湯島で板前の修業をしている香具矢(宮崎あおい)(彼女は京都から上京してきた)に出会い。馬締は一目惚れをする。同僚に「手紙を書いて渡してみろ」と言われて、馬締はあまりにも達筆な文字の手紙を香具矢に渡す。香具矢は「こんな達筆な手紙、普通は読めないよね、コレって嫌がらせ。でも、なんて書いてあるか知りたくて恥ずかしかったけれど、店の大将に読んでもらったの。言葉で言って欲しかった」と怒りながら言った。馬締は一言「好きです」と言い、香具矢も「私も」と。恋が実った。胸がキュンとするシーンである。

「大渡海」の発行が近づき、馬締は主任になっていた。編集部では単語の欠落が発覚し、学生のアバイト達と泊まり込みで作業していく。馬締が紙質にまでこだわり「大渡海」は完成される。

情熱と言葉の大切さを感じさせてくれる作品だ。ぜひチェックを



## 【THE 極み 町田仲見世通商店街「丸錠」矢部早苗さん】

町田に「仲見世商店街」という昔ながらのアーケードがある。小籠包の店、大判焼きの店等でにぎわい、ここにしかない雰囲気漂っている。

今年の春、今までは狭くゴチャゴチャしているので、通るのをあきらめていた仲世通りに知人と行ってみた。すると「丸錠」というカバン屋があった。ボロボロで使い古したカバンを持ち歩いていた滝は、そこで自分に合った新しい物を見つけた。

「丸錠」さんは、仲見世商店街の中でも古くからあるそうだ。カバン屋の話、商店街の歴史などを伺う事ができた。

近年、都市開発など、どんどん街が新しくなっていく中で、レトロ感が漂う商店街の話もいかなと思って、今回のテーマにしてみた。



### 【カバン屋の話】

滝：「丸錠」という名前の由来を教えてください。

矢部：お店の名前の由来は、父親の名前が「矢部錠一」って言うんです。その「錠」を取って「丸錠」になったんです。

滝：何故カバン屋を始めたんですか

矢部：会社になったのは昭和36年。でも、その前から商売はやっていました。どうしてカバン屋を始めたかという事は、両親が始めたのでハッキリは分かりません。

昔、聞いた記憶では、父と母が出会った頃、母がハンドバックを持っているのを見て、父がすごくいいなと思ったという話を聞いた事はあります。

滝：いいカバンの見つけ方は？

矢部：お客さんというのはいろんな方がいらっしゃいます。年齢も違うし、性別も違ってきます。こちらは並べていますけれど、お客様がいいと思う物を選んで頂ければいいと思うんです。ただ、長くやっているのでも、値段の事や品質の事とか、そういうのは分かっていると思っています。

サイズも色も、その方の好みがあるので、こちらから「これいいです」とアドバイスのひとつとして聞いて頂ければいいと思います。



### 【仲見世商店街の話】

矢部：建物自体は変わってないんです。けれど、中に入っているお店はどんどん変わっています。以前は物を売るお店が多かったんです。たとえば、お魚屋さんとか八百屋さんとか、日用品を売ったり洋服を売ったりしているお店がほとんどだったんです。でも今は、飲食店の数がかなり増えてきて、やっている方はほとんど変わってます。

滝：いつ頃から、このアーケードはあるんですか

矢部：このアーケードが出来たのが昭和30年代なんです。その前は、昔からボロ市になって、商売をする方が集まってきたんです。それでアーケードになってから店舗として使われるようになったんです。

滝：60年ぐらい経っているんですね。戦後落ち着いてきて活気が出てきた頃ですかね。

矢部：そうですね。昔は、国鉄の駅が今の場所よりも少し成瀬側にあったので、裏の通りは国鉄から小田急に乗り換えるお勤めの人とかが多かったので、「かけあし通り」と言われ、通りが賑やかだったんです。

滝：僕は昔の駅の頃は知らないな。

矢部：そうですね。国鉄の駅は路面だったんですね。今は小田急とフラットにするために、改札口が上がっていますか。

滝：アーケードが出来た時から、こちらのお店はやっているんですか。

矢部：そうだと思います。

滝：ここはそれぞれ、所有者が違うんですか。

矢部：そうです。

滝：今は何店舗入っているんですか。

矢部：33店舗です。

滝：矢部さんは何故このお店をやる事になったんですか。

矢部：たまたま親の仕事を継いだという事です。町田生まれの町田育ちで、何代も前から父方が町田の人なんです。

滝：何年ぐらい、やっているんですか。

矢部：40年近く、お店には出ています。最初は両親の手伝いで。10年前に亡くなってからは私ひとりでやっています。

### 【街の移り変り】

矢部：定点観察ではないですけど、ずっとここにいると、すごく変わったのがよく分かる。それが当たり前と言えれば当たり前なのかなとも思うんです。逆にここが残っている事が不思議になっちゃっているから、珍しいとおっしゃる方も結構いらっしゃるんですね。町田の道自体も変わってきましたよね。大きな道が出来たり。

昔は、お買い物というと、JRとか小田急線の各駅停車の駅に住んでいる人達みんな町田に来ていたんですね。でも今は、その駅その駅が駅ビルに開発されたこともあって、乗客数は相変わらず多いらしいですけど、目的としてくる人は変わってはきていると思います。

滝:お客さんの変化ってありますか

矢部:今、言ったように時代がどんどん変わってきているので、お買い物してくれるお客様の形態が変わってきています。通販もいっぱいあるので、実際に見て買い物をするということは、年齢の高い方は習慣的にありますけど、若い方はそこまでないですね。これからコロナの影響もあって、一段とお客様の意識が変わってくるだろうと思っています。それが元に戻ることはないかと。でも、お客様の数も減って、来る方も変わってきてはいますが、いい方が多いですね。とてもありがたい事です。



## 美味な話⑩ 「MOGUMOGU」

「カレーって自分の家のが一番おいしくて、みんな言うよね」昔、誰かがこんな事を言っていた。俺は特別、自分の家のカレーがおいしかったという記憶はない。ただカレーの翌日の昼ごはんに小さな鍋で温めてくれて食べた「ドロドロのカレー」がたまらなくおいしかった事は覚えている。大人になって彼女に「翌日のカレーってドロドロしていて美味しいよね」と言ったら「食べ物なのに、ドロドロって言うのは汚いからやめてよ」と言われたことがある。それならば、あのカレーの事をなんて言えばいいのだろうか。未だに分からない。

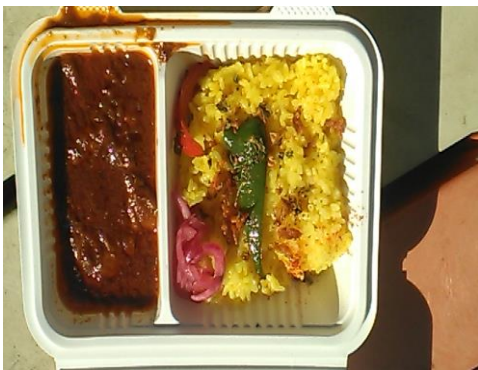
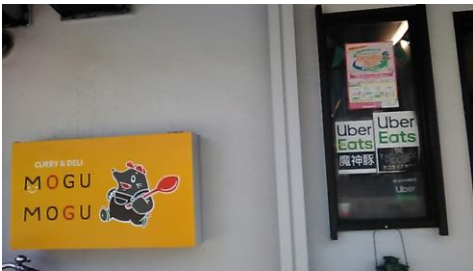
そんな事はさておき、やっと本誌で取り上げられるお店を見つける事ができた。それは、中央区富士見にある、カレー&デリ「MOGUMOGU」だ。

この店は、料理専門の家事代行をしていた、茜さんという女性が2017年から自分のお店を持ちたく、プロのデザイナー、建築士を自分で探し、店のキャラクター「もぐらくん」を誕生させ、4年越しで夢を叶え、2021年9月にオープンさせた。

MOGUMOGUのカレーは小麦粉は使ってない。材料も体にやさしい物を使う事にこだわっている。メニューも多く、カレーだけでも15種類、定番のチキンカレーから鯖トマトカレー、ひよこ豆カレー等がある。そして多数のお惣菜。どれも茜さんが心を込めて作った料理だ。マルシェに出店したり、市役所で出張販売したり、この街でのつながりを大切に展開していこうとしている。

先日MOGUMOGUに行ってみた。茜さんはとても感じが良い方だった。

ただ、1階のイートインスペースはカウンターのみで、入り口にも段差があり電動車椅子で入れなかったのが、テイクアウトしたチキンカレーを近くの公園で食べた。11月とは思えない暖かな陽ざしの中でのランチだった。少し辛かったが、オリジナルのカレーはとてもおいしかった。



## 編集後記

前号は9月発行なのに8月の最初に発送したので、ずいぶん久しぶりのナイアガラタイムスのような気がします、皆さんはお変わりありませんでしたか。

実は、滝は本誌を作っていくことに少し自信をなくし「本当に楽しみにしている人なんているのだろうか？」とウダウダと言いながら3ヵ月ぐらい編集からはなれていた。けれど年内にもう1回発行したいと急に思いたち10月の終わりから作ってみました。出来栄えはどうだったでしょうか。

そんな事を言っていたら、すっかり寒くなりましたね。今年も、もうすぐ終わり。ニュースを見ていると、戦争のことやコロナのことが流れてきて「これからどうなってしまうのだろう」とまたネガティブになってしまう。けれど物事は考え方ひとつ。自分が健康でいられること、何事もなく日々を送れていることに感謝しつつ、自分を整えていかなければ。

今回「THE極み」の取材に協力して下さった矢部早苗さん。言葉少ない会話の中に芯の強さ、そして品の良さを感じる方でした。ありがとうございました。この頃、町田に行くと「こんなに変わったんだ」と思うことばかり。そんな中で変わらずにある仲見世商店街。たしかにお店がどんどん変わってきているけれど、あの商店街のぬくもりや人情味は、どこにもないものだと思う。これからは変わらないだろうし、あのままでいて欲しい。

話は戻りますが、このナイアガラタイムス、面白く読んでもらえていますか。音楽や映画、滝が好きなものを自分の言葉で書きたいとは思ってはいるけれど、情報はネットに頼ってしまいます。「こんな事、誰でも調べられるのに書いて意味があるのかな」と疑問を持つ事もあります。けれど読者の方がひとつでも「これ、いいな」と思って頂けるコラムがあれば、こんなに嬉しいことはありません。

これから寒い冬がやってきます。暖かい鍋など食べて、どうか自愛下さい。

### 発行所

〒252-2042 神奈川県相模原市中央区横山 4-5-4-107

発行責任者 大滝英史

MAIL [nb060234-1625@tbk.t-com.ne.jp](mailto:nb060234-1625@tbk.t-com.ne.jp)

☎ 042(755)9105

### 発行協力

社会福祉法人アトリエ 一から百まで堂

〒252-0235 神奈川県相模原市中央区相生 4-15-3

### 振込先

フク)アトリエ

ゆうちょ銀行 〇九八(098)店

普通 1208349

記号番号 10960-12083491

読んでみて『面白い』と思ったら振り込みをお願いします。

これはメンバーの工賃になります

